

小栗上野介と江幡祐藏 ——万延元年遣米使節——

嘉永六年（一八五三）、ペリー提督は、四隻の「黒船」を率いて浦賀に来航し、江戸幕府に開国を求める

るアメリカ合衆国大統領の国書をもたらしました。翌年には、幕府が合衆国政府と締結した『日米和親条約』によって、下田と箱館が開港し、幕府の鎖国体制が終焉しました。以後、激動を幕末を迎えることとなります。

本である小栗上野介忠順に仕えるようになります。安政五年（一八五八）、日米間の通商条約である『日米修好通商条約』の調印がなされました。この条約には、アメリカ側に領事裁判権を認め、日本に關稅自主権がありませんでした。

体制が終焉しました。以後、激動を幕末を迎えることなります。

ペリー来航からさかのぼること二十一年前、江幡祐蔵は、下吉影の地に造り酒屋を営み、俳人でもあつた江幡昭眉の二子として生まれました。幼い頃から、郡方手代として紅葉組にいた大内與一郎の門人として学び、十七才の時には笠間藩士富田忠蔵の婿養子

二年後の万延元年（一八六〇）、日米修好通商条約の批准書を交換するため、正使新見正興、副使村垣範正を代表とする「万延元年遣米使節」がボーハタン号でアメリカ合衆国に派遣されました。その際、江幡祐蔵の主であつた小栗忠順も監察で参加し、祐蔵も小栗の従者の一人として同行することが許されました。

祐蔵に送られた銅メダルの表には、ブキヤナン大統領の横顔と「JAMES BUCHANAN, PRESIDENT OF THE UNITED STATES」、裏面には、「IN COMMEMORATION OF THE FIRST EMBASSY FROM JAPAN TO THE UNITED STATES 1860.」（日本からアメリカ合衆国への最初の使節団の記念として）と浮き彫りされています。ワシントンで大役を果たした一行は、ボルチモア、フィラデルフィアの東海岸の都市を訪問し、六月十六日にはニューヨークに到着しました。ブロードウェイのパレードでは五〇万人が集まり、空前の大歓迎を受け、六月二十九日にナイアガラ号で帰国の大途についています。



江幡祐蔵の記念写真



銅メダル (表)

ニューヨーク滞在中、祐蔵は、ブロードウェイにあるC・D・フレドリックスの写真館で記念撮影をしています。撮影された写真はダゲレオタイプ（銀版写真）で、腰に刀を一本差し、椅子に座ったナイアガラ号は、北大西洋を横断して、八月二十七日には喜望峰を回ります。帰国後、主の小栗は、勘定奉行、軍艦奉行などの幕府の要職を歴任し、さらに、横須賀製鉄所の建設を進言しています。

時は流れ、慶応三年（一八六七）、十五代将軍徳川慶喜は、大政奉還を行いましたが、翌年には鳥羽・伏見の戦いが勃発、戊辰戦争が始まります。慶喜の江戸帰還後、江戸城で開かれた評定において、小栗は主戦論を唱えますが、慶喜は、恭順謹慎する意志を固め、小栗は



銅メダル（裏）

は罷免されてしまします。その後、小栗は一家とともに、所領があつた権田村（群馬県高崎市）の東善寺に移り住みます。その際、祐蔵も同行します。

慶応四年（一八六八）五月二十七日、小栗は、官軍の原保太郎らに率いられた高崎藩などの藩兵により東善寺にいるところを捕縛され、取り調べもなく、鳥川の水沼河原にて斬首されてしまいました。祐蔵もほかの家臣とともに運命を共にしてしまいます。享年三十六。

江幡祐蔵の遺品である記念写真と銅メダルは、子孫の方から借り受け、小川資料館にて展示しています。

※①批准書

条約に対する国家の確認・同意を示す文書。

※②スミソニアン博物館

米国のスミソニアン協会が運営する博物館・美術館・動物園などの総称。

※③鳥羽・伏見の戦い

1868年1月27日（慶応4年1月3日）に起こった旧幕府軍および会津・桑名藩兵と、薩長軍との内戦。

※④恭順謹慎

命令につつしんで従う態度をとること。

※⑤罷免

職務をやめさせること。

※⑥斬首

首をきること。首をきる刑。

小美玉市サッカーフェスティバル（一般の部） 参加チーム募集！

市内在住・在勤の高校生、社会人が対象です。みんなでサッカーしましょう!!

【日 時】★1日目 11月6日（日）（小雨決行）★2日目 11月13日（日）（小雨決行）
★11月20日（日）予備日

【会 場】ふれあい運動広場、玉里運動公園

【参加費】1チーム 2,000円

【応募締め切り】10月16日（日）まで ※募集枠がいっぱいになり次第、応募を締め切らせていただきます
【問い合わせ先・申し込み先】小美玉市サッカー協会第一種書記 山井 ☎：090-5206-6437

